プラン・ニュース［2020 Spring］NO.113

# PLAN NEWS

## 国際女性デー2020

スペシャル・トーク

「LiLiCoさんと語る
映画の中の女性たち」



**シエラレオネ**
チャイルドから国際銀行のリーダーへ

**バングラデシュ＆ネパール**
災害に強い学校づくり

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

国際女性デースペシャル・トーク

# LiLiCoさんと語る 映画の中の女性たち




3月8日の「国際女性デー」を記念して、
映画コメンテーター/タレントのLiLiCoさんを招き、
プラン・インターナショナル理事の
大崎麻子を聞き手に映画やメディアが描く
女性について語りました。


Profile

りりこ（右）：映画コメンテーター、タレント。スウェーデン人の父と日本人の母を持つ。TBS「王様のブランチ」で映画コメンテーターを担当するなど、多数のメディアで活躍中。プラン・スポンサーシップを通してチャイルドを支援している。おおさきあさこ（左）：米国コロンビア大学で国際関係修士号を取得。国連開発計画（UNDP）で途上国のジェンダー平等と、女性のエンパワーメントの推進を担当。現在は、フリーのジェンダー/国際協力専門家として活動。


トーク・イベント「映画の中の女性たち」は、多くの皆さまにお申込みをいただきましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止および参加者の健康と安全を考慮し中止となりました。このため、LiLiCoさんをプランの事務所にお招きし、無観客で対談をおこないました。

## 影響を受けた映画ヒロイン

**大崎麻子（以下名前略）**　国際女性デーは世界的にジェンダー平等を目指しましょうという日ですが、映画をジェンダー平等の観点で分析すると、複雑です。映画は世界の女性の現状を伝えたり女性を勇気づける心強いメディアである一方で、作品そのものに作り手の偏見や固定観念が反映され、見る人や社会に影響を与えかねない面もあるからです。LiLiCoさんは、思春期に映画のどんな女性に影響を受けましたか？

**LiLiCoさん（以下敬称略）**　「グリース※1」でオリビア・ニュートン＝ジョン演じるヒロインのサンディですね！ラストで強く魅力的になったサンディを見て、女の子も自分の思いをきちんと伝えないと、相手のアプローチを待っているだけではダメだと、勇気づけられました。革ジャンにエナメルのピンヒール、赤い口紅で髪をクルクルにした方が男の子にモテると、勘違いもしましたが（笑）。

**大崎**　私が印象に残っているのは「ワーキング・ガール※2」です。メラニー・グリフィス扮する主人公のテスが、ウォール街でのし上がる姿が格好よくて！私もキャリアウーマンになりたいと憧れました。ただ、先日見たら随分印象が違ったんです。テスは有能だけれど、可愛くて男性を脅かさない存在として描かれている。「男性の偉い人に認められる女性が出世する」というメッセージを感じてしまいました。

**LiLiCo**　なるほど。今公開されている「スキャンダル※3」と見比べてみると面白いかもしれないですね。

**大崎**　「スキャンダル」は男性に認められなければドアが開かないという慣行を女性たちが壊す話。男女の描かれ方がだいぶ変わったなと思ったし、女性たちの強さに励まされました。

## 毎日を国際女性デーに

**大崎**　LiLiCoさんは18歳のときにスウェーデンから来日されました。ジェンダー・ギャップ指数（※）が常に上位のスウェーデンと、先進国では最下位に近い日本。映画コメンテーターやタレントとして活躍されるなかで違和感を感じることはありますか？

**LiLiCo**　「女性はこうあるべきだ」という社会の抑圧が非常に強いと驚きました。私がバラエティに出演したときに、スウェーデン人の父が「40歳過ぎて独身の娘が心配ですね」と言われて「え、何がですか？」と答えたら、番組スタッフが困っていた。日本には「女性は早く結婚した方が幸せ」みたいな考え方が、メディアにも社会にもありますよね。

**大崎**　家族観についても違和感を感じたことがあるとか？

**LiLiCo**　そうなんです！日本のテレビでは、子どもに「お父さんとお母さんどっちが好き？」という質問が普通にあるけど、スウェーデンではありえない。「父と母と子どもがいる家族」が当たり前だとまだ多くの人が思っているから、そのようなやりとりが生まれるのでしょう。スウェーデンでは家族の形が多様だし、そのあり方が尊重されている。「チョコレートドーナツ※4」という、ゲイのカップルとダウン症の少年が家族になるために奮闘する映画があります。私は作品のよさに感銘を受けたけれど、日本の主要メディアはなかなか受け入れなくて。自分の出演する番組で必死に宣伝し、やっと上映館が増えたんです。

**大崎**　確かに、日本のメディアも社会もまだまだ多様性に鈍感な面があるかもしれません。一方で、今の10代の子どもたちは、多様な性や家族のあり方を自然に受けとめているようです。プランが実施した調査では、若い世代は、男性が家事をするとかいわゆる世の中の大人が考える「性別分業」をくつがえす広告のほうが好きなんですよ。

**LiLiCo**　それは未来に希望を感じられるデータですね！確かに、コマーシャルも皿洗いするのが男性だったり、国際結婚した夫婦が登場したりと、多様化がすすんでいる。ただ、この進化のスピードはもっと上げた方がいいと思います。日本はジェンダー・ギャップ指数が先進国で最低レベルとか政治の女性参加率が低いという話を、毎年のようにしている気がします。

**大崎**　2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。少し前はメディアから女性のアスリートへの質問が、「得意な料理はなんですか？」などジェンダーバイアスのかかったものが多かった。今回は、適切な質問が投げかけられることを期待します。

**LiLiCo**　オリンピックなどで来日する多くの外国人からいい刺激を受けて、日本も「検討します」ばかり言わずに変わる国になってほしい。多様性が受け入れられ女性が生きやすい社会にむけて、毎日何らかのアクションをするくらいの心意気で。〝毎日が国際女性デー〟だといいですよね！

（※）世界経済フォーラムが公表する指数で、世界各国の男女平等の度合いを示したもの

※1 グリース／同名ミュージカルを原作とした、1978年の学園ミュージカル映画
※2 ワーキング・ガール／1988年公開。ウォール街の投資銀行で働く秘書のサクセスストーリー
※3 スキャンダル／公開中。アメリカのFOXニュースのCEOが、セクハラ行為により告発されたスキャンダルを描く
※4 チョコレートドーナツ／ゲイのカップルとダウン症の少年が絆を育むヒューマンドラマ



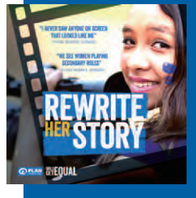



## 「女の子たちに新しい物語を」

プランは2019年10月11日、世界ガールズ・レポート『女の子たちに新しい物語を』を発行しました。映画や広告といったメディアでのジェンダー（社会的性別）の描かれ方が、女の子や若い女性の生き方にどのような影響を与えているかを調査し、提言をまとめました。

調査では、映画や広告にはジェンダーに基づく固定観念や差別を助長するリスクがある一方で、女の子たちを勇気づける可能性も大きいことがわかりました。この調査結果を受けて、女の子に勇気を与えるようなキャラクターの登場や物語を奨励するとともに、女性の監督など、作品製作に重要な役割を果たす人材育成が重要であると提言しています。

日本語版のまとめ：
https://www.plan-international.jp/about/pdf/1910_RewriteHerstory_jp.pdf




『女の子たちに新しい物語を』
（2019年）

シエラレオネ

# チャイルドから国際銀行のリーダーへ「プランが人生を切り開くチャンスをくれました」

「プラン・スポンサーシップはチャイルドの人生にどのような影響を与えているの？」「チャイルドはスポンサーのことをどう思っている？」――今回は、そんな疑問への回答とも言えるスペシャルなインタビューをお届けします。答えてくださるのは、プランの元チャイルドで、現在はシエラレオネのスタンダードチャータード銀行（※1）CEOである、アイドリッサ・アマドゥ・カマラさんです。




### シエラレオネってどんな国？

アフリカの西海岸に位置する小さな国で、鉱物、海洋資源、農業資源が豊富な国です。1961年にイギリスの植民地から独立しましたが、約12年にわたる内戦やエボラ出血熱の感染拡大で打撃を受け、今でも深刻な貧困のなかにあります。プランは1976年に活動をスタートし、現在は約1万3,000人のチャイルドが世界中のスポンサーと交流しています。



*Idrissa Amadu Kamara*

*Profile*

アイドリッサ・アマドゥ・カマラ
シエラレオネのスタンダードチャータード銀行CEO。シエラレオネの銀行協会会長、西アフリカ銀行協会会長、シエラレオネの英国商工会議所の代表も務める。49歳。

**――このたびは、お話を聞かせてくださり、ありがとうございます。**

**アイドリッサ・アマドゥ・カマラさん（以下アイドリッサ）** まず、私の人生においてプラン・インターナショナルと出会えたことに心から感謝します。プランと出会わなければ、今の私はありません。日本の支援者の皆さんに、プラン・スポンサーシップがチャイルドの人生にどんな影響を与えるのか、私のストーリーを通じて理解していただければ、こんなにすばらしい恩返しはないと思います。

私は2014年から、シエラレオネのスタンダードチャータード銀行のCEOをしています。同行はシエラレオネで120年の歴史がありますが、私は初めてのシエラレオネ出身のCEOです。

**――プランとの出会いについて教えてください。**

**アイドリッサ** 初等学校を卒業し、アルバート・アカデミーという中等学校（※2）に入学した13歳のときのことです。私は7人家族で、3歳のときに父を亡くしました。生活はとても苦しかったので、中等教育を修了するのは正直難しいだろうとあきらめていました。

ところがこのころ、首都フリータウン近郊で活動していたプランのチャイルドになることができました。当時、プランは中等学校の授業料を支払ってくれ、制服の購入代金なども支援してくれました。必死に勉強し、中等学校を卒業した後は、シエラレオネ大学で会計学を学び、優秀賞をもらって卒業することができました。その後、公認会計士の資格のほか、イギリスのオックスフォード・ブルックス大学院でMBAも取得しました。


MBAを取得した大学院の卒業式にて

私の人生において、教育を続けられるかどうかの瀬戸際だった13歳というタイミングでプランと出会い、教育を最後まで受けられたことはまさに奇跡でした。

**――スポンサーとはどのような交流をしていましたか？**

**アイドリッサ** 私のスポンサーはカナダ人のご夫婦でした。彼らが送ってくれた手紙や写真は、30年以上たった今でも大切にしています。彼らには当時3人のお孫さんがいて、その写真も送ってくれました。もしできるなら、彼らがその後どうしているか知りたいと思っています。

**――プランのチャイルドだったころの思い出は？**

**アイドリッサ** 一番楽しみだったのは、プランのチャイルドたちが集まる会合です。そこでスポンサーから送られた手紙や写真が配られるのですが、手紙を受け取ると、言い表すのが難しいほどのうれしさと、誰かが見守ってくれているという安心感がありました。同時に、自分も手紙を書かなくては、よい写真を送らなければという責任も感じました。自分を応援してくれる人によいところを見せたい、もっと勉強して立派に頑張っていることを伝えたい、という強烈な思いがありました。

**――プランの活動でほかに印象に残っているものはありますか？**

**アイドリッサ** プランは、夏休みにはすべてのチャイルドに「ホリデー・ジョブ」という仕事を作ってくれました。壊れたイスや机を直したり、校庭の草刈りをしたりして、新学期に備えるのがおもな仕事でした。これはお小遣い稼ぎにもなりましたし、何よりも学校生活に自分が役立っているという実感がもてました。同時に、仕事をする厳しさも学び、卒業後に社会人として生きていく準備にもなったと思います。この体験が私の人生を形づくるのに役立ったことは間違いありません。

**――子ども時代の自分に何か伝えるとしたら、どんなことでしょう？**

**アイドリッサ** 「人生は希望に満ちている。君に必要なのは努力と熱意。人生で課題に直面したとき、それを自分でコントロールし、乗り越えるための洞察力を養いなさい」ということですね。子どものころ、母は私たち兄弟に物売りを手伝わせながら、「目の前にある現実の世界を選ぶか、それとも将来こうありたいと夢見る世界を選ぶか」と問いかけていたように思います。私は後者を選びました。

**――今後はプランとどのように関わっていこうと思っていますか？**

**アイドリッサ** シエラレオネの元チャイルドが集まるグループでボランティアをしていて、このグループが結束して長く活動を続けられるよう、支援しています。また、プランのアンバサダー的役割も担っていきたいと思っています。



スポンサーからの写真と手紙。手紙にはバラを育てる温室のことが書かれています

## 「皆さんの支援で、アフリカの子どもの人生が大きく変わることを知ってください」



**――最後に、日本の支援者へメッセージをお願いします。**

**アイドリッサ** 私のストーリーを通じて、厳しい状況にあるアフリカの子どもの人生が、スポンサーである皆さんの支援で大きく変わるのだということを実感していただけたら、うれしく思います。私は今、国内で唯一の国際銀行を率いているだけでなく、シエラレオネの銀行協会会長、そして英国商工会議所の代表として、海外からシエラレオネへの直接投資を推進し、国内の人々の生活に影響を与える立場にあると自負しています。明るい将来を見出せなかった13歳の私に、こんな人生が訪れるとは誰も思わなかったでしょう。プランが人生を切り開くチャンスをくれました。

皆さんがプランを通じて行っている支援は、子どもたちに教育の機会を与えるだけでなく、将来の世界のリーダーを育成するのにも一役買っています。皆さんの支援は、確実に世界を変えているのです。

**「プラン・スポンサーシップ」についてはこちら**


プランと出会ったころのアイドリッサさん

※1 ロンドンに本拠を置き、世界70カ国で事業を展開する国際的な銀行金融グループ
※2 シエラレオネの教育制度は、7～12歳が初等教育、13～15歳が前期中等教育、16～18歳が後期中等教育

illustration by Noriyuki Goto

# ガールズ・プロジェクト物語「災害多発地域に暮らすルマ」

バングラデシュでは毎年のように洪水などの自然災害が発生しています。
少数民族をはじめとする貧しい人々は、災害に備えることもできず、
さらなる貧困に陥り、特にその負担は女性に多くのしかかります。この負の連鎖を
断ち切るためにプラン・インターナショナルが実施したプロジェクトをお伝えします。




**25**歳のルマは、夫と5歳の子ども、夫の両親との5人暮らし。バングラデシュに住んでいますが、もともとミャンマーにルーツをもつ少数民族です。

ルマの家では夫と義父が仕事に出ていましたが、決まった仕事を得るのは難しく、二人とも日雇い労働をしていました。安定した仕事ではないので、生活は楽ではありません。十分な食料を買うこともできず、ルマたちが家庭菜園で育てた野菜を使って料理をし、1日に2回の食事をとるのがやっとといった暮らしぶりでした。



**も**のごとの決定権は夫と義父にあり、ルマが何かを決めることは許されませんでした。家の中でひっそりと家事と育児をするだけの毎日。村の中で知り合いも少なく、ルマはいつも孤独を感じていました。



**ル**マが住む地域は、3つの大きな川が合流した下流にあります。洪水に見舞われることも多く、そのたびに家庭菜園も流されてしまいました。

ある日、サイクロンによる豪雨がルマの住む地域を襲いました。それは死者100人以上、数百万人の人々の生活に被害が出るほどの大きなもので、ルマも家と家庭菜園を失いました。貯蓄もなく、途方にくれながらもなんとか食いつないでいたとき、プランがこの地域で女性たちの生計向上のための支援プロジェクトをスタートしました。





**夫**は反対しましたが、ルマは家計を助けるため勇気をだしてプロジェクトに参加しました。まず家畜の飼育方法を学び、補助金を得てヤギを購入しました。そして2年後には、羊5匹、ヤギ3匹、鶏18羽を育て、それを販売して収入を得られるようになりました。さらにプランのトレーニングを受け、家畜にワクチンを打つ「パラベット」という資格を習得し、50軒ほどの家を定期的にまわって収入を増やすまでになりました。

**安**定した収入を得られたことで、義母の薬代を出してあげたり、義父から仕事の相談を受けたりするようになりました。仕事を通じて、地域の人々とコミュニケーションをとることが増えたルマは、災害時の対処法や避難場所についても知り、何かあったときにもとっさの行動ができるようになりました。



なによりルマがうれしかったのは、家庭やコミュニティの中で自分が頼られていると実感できるようになったことです。

「少しずつですが、災害時に備えて貯蓄もできるようになりました。子どもの教育のためにも、もっと貯蓄を増やしたい」と話すルマ。これからは、自分が学んだことを共有して、村の女性たちの役に立ちたいと考えています。

## 女性が災害に備える力をつけ、頼られる存在に

解説：プログラム部　榎田真季 職員

プロジェクトを行った地域では、貯蓄がない家庭も多く、災害後の生活再建が非常に困難な状況でした。3年間のプロジェクトを通じて女性たちはマイクロファイナンス（小規模金融）の金融サービスを利用し、収益の一部を貯金し始めました。

現在では「災害にも備えられるようになった」「もっと貯金して子どもの教育とビジネス拡大のために使用したい」といった声もあがり、将来設計ができるまでになりました。

プランの提案で病気や事故などに直面した人々を支援するための募金も始まり、コミュニティでの助けあい強化につながっています。収入向上という成果に加え、発言権のなかった女性たちに自信が生まれ、家族やコミュニティとの関係性にもよい変化があらわれています。皆様のご支援に感謝申し上げます。

## ガールズ・プロジェクトとは

「女の子だから」というだけの理由で差別や偏見を受け、有害な慣習の犠牲になる女の子たちを守ります。同時に、女の子たちが力をつけ、自分や家族、地域社会や次世代にまでポジティブな変化をもたらす主体者となるためのサポートをします。
ガールズ・プロジェクトでは、さまざまな地域の女の子たちを継続的に支援しています。

**「ガールズ・プロジェクト」についてはこちら**

バングラデシュ＆ネパール

# 災害時も安全に過ごせる学校、そして地域に

スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんの活躍にも代表される通り、
気候変動への迅速な対策を求める運動が、世界中の若者たちの間に急速に広まっています。
プラン・インターナショナルが長年活動する地域でも、確実に気候変動の影響を受けており、
相次ぐ自然災害への備えという観点から支援を強化しています。
一例として、2018年からバングラデシュとネパールで実施している
「災害に強い学校づくり」プロジェクトについて報告します。

レポーター　プログラム部　倉橋功二郎職員



## 活動の背景

### 地域ぐるみで防災意識を高める必要性

日本では、多くの場合、公立学校が災害時の対応の拠点となります。また、消防団のように地域における防災リーダーとして住民の安全を守る役割を担っている住民組織もあります。一方で、途上国は学校や地域住民の防災に対する備えや知識が十分ではなく、地域としての対策も不足している場合が多いのが現状です。

### 自然災害でより多くの被害を受けるのは女の子

自然災害が脅威であることに男女の違いはありませんが、その脅威を実際にどのように経験するかは男女によって大きく異なります。たとえば、2004年に発生したスマトラ島沖地震による津波被害の調査では、特に被害の大きかった地域では死亡者の75%が女性でした。家事のために在宅していたことや、泳いだり木に登ったりして逃げられなかったことなど、さまざまな理由が考えられます。

また、災害発生後の経験も同様です。多くの被災地では、性暴力の被害にあう女の子や女性が増え、災害で仕事を失った家族を支えるために、早すぎる結婚を選択したり、人身取引の被害にあったりする女の子も増加します。学校再開後には退学率が上昇しましたが、この傾向は女の子で顕著でした。



(右) 高台にある学校では崖から落ちる危険があるため、壁を建設中 (ネパール)
(下) プロジェクトに参加する女の子たち (ネパール)






## 女の子も防災教育をリードできるよう支援

ネパールでは2015年に大規模な地震が発生して以降、災害対策の重要性が高まっています。特に貧しい地域であるネパール西部のスンサリ活動地域は、自然災害に対するインフラ整備が十分でなく、毎年のように大きな被害が発生しています。

同じ地域でも、各学校の地理的特性により受ける被害は異なります。たとえば、丘の上にある学校では強風、雷、地滑りなどの被害にあうリスクが高く、敷地内に小川が流れる学校では雨期に水害が頻繁に発生します。それぞれの学校に合った災害対策が求められます。

また、この地域では、災害に限らずさまざまな情報の伝達や意思決定は大人の男性が中心となっていました。そこでプランは女の子たちが積極的に防災計画の策定に参加し、防災対策をリードできるよう支援。ゲーム感覚で防災知識を身につけられる「防災イス取りゲーム」を男女が一緒に楽しめるようにしたり、どんな災害がいつ起こるかに関する災害リスク表の作成などにも参加しました。

性別を問わず子どもたちが防災計画の策定・普及活動に参加することが、学校、そして地域の防災意識を高めていくために重要なことです。




子どもたちも参加して作成した月別の災害リスク表。強風、水害、雷、土砂崩れなどのリスクが高い場合は赤、低い場合は緑で示されている (ネパール)



イスに座れなかった人が防災に関する質問に回答する「防災イス取りゲーム」(ネパール)

## 今後にむけて

### 学校で学んだ防災スキルを地域に生かす

学校は住民同士をつなぐ、とても重要な役割を担っています。「災害に強い学校づくり」プロジェクトは、学校の災害対策に加えて周辺地域の自然災害への備えを強化することにもつながるのです。また地域内での女性、女の子に特有の災害リスクへの理解を高める啓発活動も進めており、成果が出始めています。



地震を想定した避難訓練の様子(バングラデシュ)

「グローバル・プロジェクト」についてはこちら

### 参加者のコメント (バングラデシュ)



#### 防災知識をコミュニティで共有

バングラデシュ北部クリグラム県にある小学校の災害マネジメント委員会のメンバーであるアフローザさんは、2019年8月に水害が発生した際に、プランから学んだ災害対策の知識を実際に活用することができたひとりです。

「雨が1週間ほど降り続いたとき、大きな災害が発生しそうだと思い、近隣の家庭を訪問して、プランの研修で学んだことを話しました。私が住んでいる地域は読み書きの不自由な人々が多く、災害についての知識も多くありません。そもそも情報を伝達する手段も限られています。すぐに水害への備えを始めることや高台への避難、幼児や女の子に起こりうるリスク、そして水害が起きたときの衛生管理など、多くのことを伝えることができました。プランのプロジェクトで学んだことが、みんなの役に立って、とてもよかったです。」

# 娘の遺志を母が引き継いで カンボジアの7村に井戸を設置

「遺贈や相続財産からの寄付」のご相談が増えています。今号では、ご逝去されたお嬢様の退職金をご寄付くださった境さんにお話をうかがいました。

**境 初美さん**



境初美さん(写真右から二番目)。生前のひとみさんとの家族写真



落成式で、井戸の前に集まる村人たち。ひとみさんの名前の入った記念プレートも設置されている



完成した井戸。ハンドルは子どもでも廻せるように軽く作られている

## カンボジアの大量虐殺に心を痛めていた娘の遺志

6年前になくなった娘、ひとみの退職金をカンボジアの7つの村への「ポンプ付き井戸の設置」と、「図書・工作用教材と衛生トレーニング用備品の支給」に使っていただきました。

ひとみは中学生のころから、世界の貧困問題や難民問題に関心を持っていました。特にポル・ポト政権による大量虐殺には心を痛め、いつかカンボジアの子どもを養女にしたいとも話していました。

亡くなったのはひとみが34歳のときです。やりきれない気持ちを引きずっていたとき、生前に彼女が「私はたまたま物の豊かな国に生まれてきたけれど、なにかカンボジアの人のためにできることはないだろうか」と話していたことを思い出しました。そこで夫や息子とも相談し、ひとみの退職金をカンボジアの子どもたちのために役立てられないかと考えたのです。

## 生活に必須なインフラさえ整備されていない現実

ちょうど友人がプランを通じてアフリカの子どもたちの支援をしていたので、事務局に問い合わせました。

最初は学校建設を希望しましたが金額が折り合わず、プランからは予算内で井戸を設置する案をご提示いただきました。

日本では蛇口をひねればいつでもきれいな水が飲めますが、カンボジアでは地域によっては給水設備がなく、遠くの川へ水を汲みに行くために学校に通えない子どもたちもいます。まずはライフラインからという思いに至り、井戸の設置をお願いすることにしました。



「ひとみ文庫」として、7カ所の就学前教育施設に、図書と工作用教材、衛生トレーニング用備品の支給が行われた

## ひとみの井戸が希望の水に 娘の命がつながりました

一年ほどで7つの村に井戸ができたものの、当初は私の自己満足ではないかといった思いが、少なからずありました。

しかし、村の人たちのお礼の言葉の入ったプランの報告書を読んだり、カンボジアの村に井戸を作るテレビ番組を見たとき、きれいな水をカンボジアの方々がどれだけ待ち望んでいたかが伝わってきて、胸をなでおろしました。

落成式への参加もすすめられましたが、現地は遠く、体力的なことも考えて断念しました。代わりに渡航費分を「ひとみ文庫」として、現地の子どもたちの教材費などにあててもらいました。子どもたちに絵本の読み聞かせもしていたひとみは、「途上国では教育より生きることが先になってしまう」と悩んでいましたから、現地語の絵本と教材を贈ることができて、娘の思いも叶えられたように思います。

プロジェクトを通じて、ひとみの命が、たくさんの人たちの希望の水になりました。同時に、私たち家族も生きる希望をいただいたと、感謝しています。


● お問い合わせ先：寄付受付・企業連携担当 Tel：03-5481-7100 / Mail：hello@plan-international.jp



# カカオ生産国の子どもを笑顔に 消費者参加型キャンペーン

昨年創業120周年を迎え、持続可能な社会の実現にむけたCSRの取り組みにも力を入れている森永製菓株式会社。2008年からはプラン・インターナショナルを通じて、売り上げの一部をカカオ生産国に寄付するキャンペーンを続けてくださっています。



お話をうかがったCSRグループの中島さん(左)と塩原さん

**中島庸子さん 塩原真紀さん**

森永製菓株式会社 コーポレートコミュニケーション部CSRグループ




現在はカメルーンで支援活動を行う。過去には、ガーナ、フィリピン、エクアドル、インドネシアで実施



報告会の様子。自由参加にもかかわらず、想定を超える60人近くの従業員が参加した

## お客様からも評価される消費者参加型キャンペーン

森永製菓グループでは、毎年バレンタインの前の特別月間に、「1チョコ for 1スマイル」キャンペーンを行っています。

これは弊社のチョコレートの対象商品1個の売り上げにつき1円をカカオ生産国に寄付する活動で、寄付はプランなどのパートナー団体による、カカオ生産国での子どもたちの教育支援や、カカオ農家の自立支援を行うために使われます。

弊社は年間を通じての寄付も行っていますが、同キャンペーンはお客様も参加できる支援です。お客様から「いい活動をしてくれているから購入した」「長く続けて欲しい」といったお声をいただいています。小・中学校の英語や社会の教科書にとりあげられたこともあり、子どもたちからも手紙が寄せられます。

昨年度末までの10年間で2億2,566万8,644円と、大変大きな金額が支援につながりました。取り組みを通じて社会に貢献できることを、誇りに感じている従業員も多いようです。

## 「取り残された人々」の現状に衝撃を受けた従業員も

とはいえ、実際のカカオ生産国の人たちが抱える問題をよく理解している従業員ばかりではありません。そこで今年1月16日には商品開発に従事している従業員にむけ、プランの担当者から報告をしていただきました。

参加者は途上国の「取り残された人々」の現状や世界の動きについての報告のなか、早すぎる結婚や妊娠で教育の機会を失うことが多い「女の子」を支援することは、貧困の負の連鎖を断ち切る強力なアプローチという点に、深く聞き入っていました。また、報告会終了後には「現地の女の子の動画をみて、アフリカで起きている現実にショックを受けた」「カカオ生産地の現状を知り、自社のキャンペーンが現地の役に立っているという実感がわいた」といった声も聞かれました。

これからも持続可能な社会にむけ「食」を通じた価値の提供、次世代育成、地球環境・社会への配慮について、私たちCSRグループとしても、さまざまな方法で従業員やお客様へ、活動内容をお伝えしていけたらと思います。

「1チョコ for 1スマイル」の支援の仕組み




### カメルーンの「教育環境改善プロジェクト」

森永製菓株式会社のご支援により2019年6月から始まったこのプロジェクトは、カメルーン東部のバンドンゴエ・コミュニティで実施されています。住民の多くがカカオ豆などで生計をたてていますが、特に保健医療や子どもの教育に充てられる収入は十分ではありません。学校の老朽化など、教育環境の整備も喫緊の課題でした。そこで、小学校の教室や男女別トイレ、井戸の建設や、教育に関する意識啓発活動などを行っています。

● お問い合わせ先：寄付受付・企業連携担当 Tel：03-5481-7100 / Mail：hello@plan-international.jp



遠い国の女の子の親になりました！

# チャイルドには何回も会いに行きたいと思っています

今号から数回にわたって、チャイルドとの交流をスタートさせたばかりの方々をご紹介。第1回は、昨年1月にベトナムの女の子との交流を始めた角田さんです。

スポンサー **角田翔太郎さん**　チャイルド **マイちゃん（5歳）**／ベトナム

## 人生を振り返ったときプランとの出会いが

私は高校1年生のときにロシアのハバロフスクへ行き、地元の中高生と1週間交流しました。3年生のときにはモスクワで国際科学オリンピックに参加し、70近い国々から集まった生徒たちと交流しました。こうした経験を通して、「人間というのは、生まれ育った国が違ってもほとんど変わりない」と感じていました。

その後、大学を卒業して日本のメーカーに就職。数年後に上海勤務となり、約2年半の駐在を終えて昨年10月に日本へ戻ってきました。上海にいるとき、仕事で大変なことがあったりして、ちょっと人生を振り返る時期があったのですが、そのとき思ったのは、「日本に生まれた自分は恵まれている」ということ。そして、何らかの形で社会に恩返しがしたいと考え、ネットでいろいろ調べていたときに出会ったのがプラン・インターナショナルでした。

これまでに世界10カ国以上を訪れ、上海時代にはチベットやウイグル自治区なども含め30カ所くらい旅した経験から、高校生のときに感じた「人間は基本、みんな同じ」という思いは強まり、貧困や性別、人種、民族、障がいといった自分の力以外のところで機会が奪われてしまうことへの問題意識も高まっていたことが、プランを選んだ理由だったと思います。またプランは、1人の子どもとの交流を通してその地域を知り、同時に途上国支援ができるという点が、自分の考え方に近くていいなと思いました。



マイちゃんの写真。右はお兄ちゃんと一緒に

## チャイルドとの交流は彼女の卒業まで続けたい

チャイルドの性別や地域などの希望は特になかったのですが、ベトナムという今まで行ったことのない国の少数民族の女の子、マイちゃんと交流することになりました。彼女を通じて地域の支援ができるのをとてもうれしく思っています。

交流1年目には手紙と写真を送り、最初の手紙への返事と、「一年の歩み」の報告書をもらいました。まだ小さいのでボランティアの方の代筆でしたが、写真（チベットで撮ったもの）をとても気に入ってくれて、「ベトナムから遠いところに住んでいますか？」「仕事は忙しいですか？」などと質問してくれました。

交流2年目の今年は、できればもっと手紙を書こうと思っています。今年は長めの休暇がとれそうなので、そのときはマイちゃんに会いに行くと決めています。マイちゃんたちがどんな生活をしているのか、現地の人たちがどんな考えをもっているのか、自分で確認できるのが楽しみで仕方ありません。

マイちゃんとの交流は、彼女がプランを卒業するまで続け、その間できる限り現地に会いに行って成長を見守りたいと思っています。また、プランでの支援がきっかけのひとつとなり、将来はビジネス面でも途上国支援ができないかと考えています。



途上国支援について熱く語ってくださった角田さん

**角田さんとマイちゃんのこれまでの交流記録**

2019年
- 1月 交流スタート
- 2月 マイちゃんにバースデーカード（手紙と写真付き）を送付
- 3月 マイちゃんからはじめてのお手紙が届く
- 6月 2月に送った手紙のお返事が届く

2020年
- 1月 プランから「一年の歩み」（チャイルドの成長記録）送付





アドボカシー

# 解説：アドボカシーって何？

アドボカシーチーム リーダー **長島美紀 職員**

「アドボカシー」という言葉を聞いたことがありますか？

辞書には「支持すること。また、擁護すること。特に社会的な弱者の権利を擁護すること」（デジタル大辞泉）とあります。

具体的には、弱い立場に置かれやすい子どもや女性、高齢者、障がいのある人などの権利を守るために法制度がきちんと運用されているかを監視、評価し、場合によっては改善を求めるまでを指します。

たとえば貧しい漁村を考えてみましょう。「魚がとれない」と悩む村の人に対して、新しい網や竿を与えることは、国際協力で言えば「緊急支援」にあたります。それに対してアドボカシーは、「どうして魚がとれないのか」と原因を考え、上流のダム建設が原因なら計画を見直すか、新しい漁を提案するか、漁村の人の補償を考えます。短期間では解決しないけれど、制度そのものの問題を考え、人々の意識を変えながら制度を改善する動きがアドボカシーと言えるでしょう。



アドボカシーチーム
（左から長島美紀職員、
長島千野職員、澤柳孝浩職員）

プラン・インターナショナルのアドボカシーチームが目指すのは、世界中のあらゆる女の子や若い女性が自分の未来に希望を持ち、「なりたい自分」を目指せること。そんな社会のためには法律や制度の見直しが必要です。私たちは中長期的な視点から、すべての人が取り残されない社会づくりを進めたいと考えています。

開発教育

# 中学生が社会貢献学習プログラムで事務局を訪問

2月4日、東京女学館中学校の3年生16人がプラン事務局を訪問。途上国の女の子を取り巻く問題に関する授業のほか、チャイルドから届いたお手紙を整理するボランティアワークを体験しました。参加者のコメントを紹介します。



手紙整理のボランティアワークを体験する学生の皆さん

「途上国では女性差別などがまだ根深いことを学びました。多くの手紙をみて、支援者とチャイルドの活発な交流に驚きました」

「直筆の手紙が届くので、交流を通じて寄付してよかったと実感できるのがプランの特徴だと思いました」

「想像以上に途上国の貧困問題は深刻。今後は読書感想文コンクール参加やSNS拡散など、できることをやっていきたい」

今後も多くの中高生が学ぶ機会を提供していきたいと思います。

COFFEE BREAK　職員が紹介するカルチャー

## その美しさに癒される。インドのハンドメイド絵本

紹介する人：企業連携担当　**西村恵子 職員**

インド南東部のチェンナイにある小さな出版社タラブックスは、絵本から社会問題まで、幅広いジャンルの本を出版しています。なかでもハンドメイド絵本は紙漉きから印刷、製本までが一冊ずつ手作り。以前から絵本が好きだった私は、この絵本に出会ったとき、その鮮やかな絵や紙の手触り、インクの匂いに五感を刺激され、心から感動しました。まるで工芸品のような絵本です。




繊細な絵が印象的なタラブックスの絵本
https://tarabooks.com/

あなたも参加しませんか？

# プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

「プラン支援者の会」は、全国各地の支援者の皆さまが任意で活動を行っています。
「ほかの支援者の皆さんと話がしたい」「志を同じくする方々と楽しく活動がしたい」とお考えの方、
お近くのプラン支援者の会に参加してみませんか？

Wウェブサイト fフェイスブック　左記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai

### プラン広島の会 f

**「チャイルドへのお手紙書き会」（毎月開催）**
- 日時：4月～6月各月の第3日曜 14時～16時
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ フリースペース(2Fまたは3F)/広島市中区袋町6-36
- 内容：チャイルドへの手紙書き
- 参加費：無料　※事前申込不要
- 連絡先：小村 Mail: naokomura@kej.biglobe.ne.jp

### プラン博多 f

**「ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト活動報告会2020 in 福岡」**
- 日時：5月9日（土）　15時～20時
- 会場：福岡市健康づくりサポートセンター（あいれふ）/福岡市中央区舞鶴2-5-1
- 内容：プランの活動国でもあるルワンダで、義足づくりを23年続けてきた真美さんの活動体験報告会。報告会前にはルワンダ料理教室も開催します！

◎15時～17時：料理教室
◎17時～20時：活動報告会（報告会後、料理教室で作った料理で会食します）
- 参加費：一般2,000円、学生1,500円

※報告会のみ（食事代込）は一般1,000円、学生500円
- 定員：料理教室20名、報告会55名
- 申込締切：5月7日(木)

※料理教室のみの参加不可
- 連絡先：松尾 Mail: planhakata2017@gmail.com

### 多摩SP会 W

**映画上映会『ポバティー・インク ～あなたの寄付の不都合な真実～』**
- 日時：5月16日(土) 9時30分～12時(受付9時～)
- 会場：立川市こども未来センター 202会議室/立川市錦町3-2-26
- 内容：映画鑑賞後、感想をシェアして意見交換をいたします。
- 参加費：300円※事前申込不要
- 連絡先：矢島 Mail: tama-web3@ngo-npo.org

### プラン・奈良の会 W

**「総会 および 職員報告会」**
- 日時：5月31日(日) 13時15分～16時
- 会場：生駒市たけまるホール研修室4/生駒市北新町9-28
- 内容：総会およびプラン職員による報告会。奈良の会に入っておられない方も大歓迎です。
- 参加費：無料
- 申込締切：5月24日(日)
- 連絡先：富山 Mail：j-tomy@kcn.ne.jp

### 山形・秋田プランの会

**「第37回　山形・秋田プランの会」**
- 日時：7月5日(日)　13時～16時30分
- 会場：秋田中央市民サービスセンター（愛称　センタース）3F洋室(予定)/秋田市山王1-1-1秋田市役所内
- 内容：プラン職員の講演、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
- 参加費：500円
- 申込締切：7月2日(木)
- 連絡先：岩谷 Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

## 今年度、新しく立ち上がった支援者の会をご紹介します。



### プラン三重の会

2019年8月に「プラン三重の会」を立ちあげました。今年の元旦には、地元の菰野（こもの）富士から初日の出を見る会を開催し、10名が参加。みんなでいい1年のスタートを切ることができました。今年もいろいろな企画を考えていますので、ぜひご参加ください！（世話人：山口・伊藤）
Mail：plan.mienokai@gmail.com




### プラン神奈川の会

神奈川県は支援者数が多いにも関わらず支援者の会が存在しないと知り、思い切って年末に会を立ち上げました。2月にはじめての支援者の会を開催したところ、25名の方にご参加いただき、情報交換をするなど大変盛況でした。神奈川近郊にお住まいの方、ご参加をお待ちしております！（世話人：三橋）
Mail：nm421223@icloud.com

■ 支援者の会に関するお問い合わせ先：リレーション開発部　TEL：03-5481-6100
※「プラン・ニュース」No.114は、2020年7月上旬にお届け予定です

## 「夏休み読書感想文コンクール2019」の表彰式が行われました



角田審査員長（中央）を囲んで記念撮影

6年目を迎えた「夏休み読書感想文コンクール」には、18都道府県45校の中高生から979作品の応募がありました。11月17日に行われた表彰式では個人賞を受賞した6人を表彰。今回、個人賞の半分を男子生徒が占め、高校の部の最優秀賞を受賞したのも男子でしたが、これはコンクール史上初めてのことです。

審査員長の角田光代氏さんの講評では、「今自分が置かれている環境や状況が“たまたま”であることに気づかないと、同じ時代を異なる環境で生きている人に思いを馳せることはできない」というメッセージが印象的でした。参加者からは、「途上国に行く機会がなくても、ノンフィクションの課題図書を読むことで現地のリアルを体験できるので、子どもたちのために自分に何ができるかを考えるよいきっかけになった」という声も数多く聞かれました。

コンクールは2020年も行います。国際理解の一助として、是非ご活用ください。

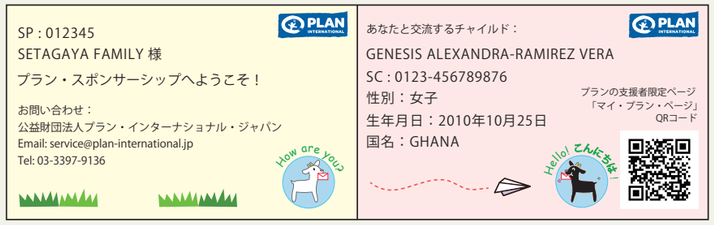
※入賞作品と講評、学校賞コメントは、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.plan-international.jp/news/event/20191119_19774/

## ウェブ限定デザインの宛名ラベルが登場！

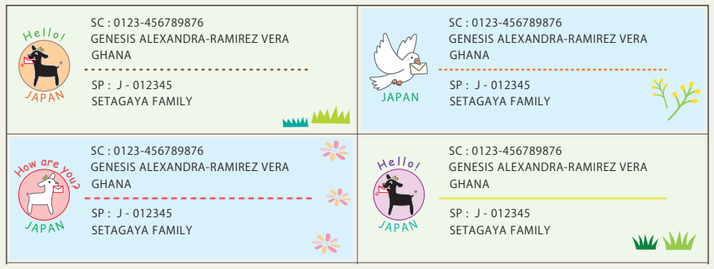
チャイルドとの手紙の交流で使う宛名ラベル。このたび、ボランティアさんによるかわいいデザインに変更しました。子どもたちが笑顔になってくれることをイメージして書いてくださったそうです。

このラベルはプランのウェブサイトからダウンロードしてお使いいただけます。マイ・プラン・ページにログインしてから、「宛名ラベルダウンロード」をクリックすれば、スポンサー番号などの入力も不要です。ぜひご利用ください！

※プランのウェブサイトで「宛名ラベル」を検索してください。
https://www.plan-international.jp/sclabel/index.php




スポンサー番号やチャイルド情報が記載されています。お財布などにいれておくと便利です




チャイルドへのお手紙やギフトに貼ってご利用ください

## 遺贈・相続寄付の新しいパンフレットが完成しました

終活や社会貢献への関心が高まるなか、遺言によるご寄付（遺贈）や相続財産の寄付を通じて、子どもたちの未来に役立てたいと、温かい思いをお寄せくださる方が増えています。このたび、プランへの遺贈の特長、遺贈の流れ、自筆証書遺言の作成例や包括・不動産遺贈の記載例、相続財産からのご寄付の流れなどを盛り込んだ、新しいパンフレットが完成しました。

不動産遺贈や包括遺贈など、現預金以外の遺贈もありがたくお受けしています。なお、受け入れが困難な不動産などもございますので、事前にご相談ください。

【資料請求・お問い合わせ先】
遺贈寄付担当
TEL：03-5481-7100
Mail：izou@plan-international.jp




遺贈・相続財産寄付の新しいパンフレット

# 支援者の皆さまからのご意見・思いをご紹介！

事務局には日々、支援者の皆さまからさまざまなご意見や、支援への思いなどが寄せられます。
その中からいくつかピックアップしてご紹介してきた本コーナーも、今回が最終回です！




広報マーケティング部
**津田恵美**職員

入局以来10年以上支援者サポート業務に携わり、現在はおもにマーケティング業務を担当

幼少期にご両親から受けた愛情を次の世代にバトンタッチしてくださり、ありがとうございます。Sさんのその思いが途上国の子どもたちに伝わり、きっと彼らが次の世代にさらにバトンを繋げていってくれることと思います！（津田）

## 両親への感謝を次の世代へ

両親が亡くなったときに、自営業で家族旅行もしたことがなかった子ども時代を思い出しました。裕福ではなかったけれど、きちんと三食手作りの料理を食べさせてもらい、学校にも行かせてもらいました。子どものとき、食べることを心配せずにすんだ親へのお礼として、寄付しようと思い、支援を始めました。（Sさん）

## チャイルドの国が大切な場所に

プラン・スポンサーシップで繋がったミャンマーの男の子との縁。「あなたからのお手紙は、ぼくに強さをくれます」――彼から届く気持ちのこもったお手紙に、毎日頑張ろうというパワーをもらえます。“支援をしている”ではなく、“支え合っている”と感じています。彼の住むミャンマーは私にとって、とても大切な場所になりました。（Tさん）

チャイルドの国はプランで選ばせていただき、偶然つながったミャンマーとの縁が、Tさんにとってこんなにも大きな影響を与えることになったのですね。Tさんとチャイルドの絆を感じ、私たちもとてもうれしく思います。これからも楽しい交流が続きますように。（津田）

## 世界がよりよい方向へむかうために

世界には理不尽に、運命を決められてしまう女の子がいる。それはとても悲しいことで、そんな世界が少しでもよい方向へむかう手助けになりたいと思い支援を始めました。「少しでも世界の女の子のためになっているなら、これからも頑張ろう」と、自分自身への励みにもなっています。（Nさん）

Nさんのように、ご支援くださっている皆さまの温かい思いによって、プランのプロジェクトは支えられています。Nさんがご自身の励みにしてくださっているように、皆さまの思いが女の子たちの励みになっています！（津田）

## 手紙で覚えたチャイルドの国の言葉

マニラに行ったときの体験です。ホテルでの食事、ホスピタリティは快適でしたが、一歩まちに出ると、裸足の子どもたちがビュンビュンと行きかう車の間をぬって、ばら売りのタバコや花を持って駆け寄ってくるのです。帰国後、私たちが住んでいる地域で開催されたプランの集まりに参加し、それ以来フィリピンの子と交流しています。チャイルドがタガログ語で書いた手紙が届きました。「Salamat, Kumusta ka ？（ありがとう、お元気ですか？）」――私もひとつタガログ語を覚えました。（Sさん）

Sさんのフィリピンでの体験が鮮明な思い出として帰国後も心の中に残り、ご支援という形でつなげてくださったのですね。チャイルドとの手紙のやりとりが目に浮かぶようで、心が温かくなりました。（津田）

※ウェブサイト上でも様々なコメントをご紹介しています
https://www.plan-international.jp/about/voice/

### プランのSNSをフォローしてください

プラン・インターナショナルのFacebook、Instagram、Twitterで活動国の情報や事務局の日々のあれこれを発信中！

※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。

### マイ・プラン・ページにご登録はお済みですか？

マイ・プラン・ページにご登録いただくと、登録情報や現在のご支援内容を確認できるほか、限定コンテンツもお読みいただけます。また、スポンサー番号やチャイルド番号が自動表示され、入力の手間なくチャイルドへお手紙を送付できます。

ご登録はこちら



トップページには、支援者の方に関連する最新のお知らせが表示されます

PLAN NEWS
2020 SPRING NO.113

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22 サンタワーズセンタービル 10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：バングラデシュ